

木協通信

第27号
発行年月日
平成26年1月6日
日田市南友田100-1
日田木材協同組合
総務企画委員会発行
TEL24-2167

★日田木材協同組合百年を語る

○明治維新に於ける日田林業と日田郡木竹商組合の誕生 続き

これは一般経済が疲弊の極みで家造や修繕も節減するようになったことも原因であるが、これ迄の伐採が伐りやすい里山に集中し、川筋近傍の山林が伐り荒らされた為、道路の不便なところから伐り出さねばならず、その為の運搬や失費が多くなり引き合わないで、良質材が少なくなり声価を損じるようになった。

さらに、今迄は商売熟練の者が板とし、角とし、又丸太であっても材質の好悪で適宜に見計らってよく揃えていたが、材木の税法改正後は不熟の者もこの業をしてみだりに品物を製造するようになり、引いては、自然に固有の声価を落している。

次回続く

★新年ご挨拶



理事長 瀬戸亨 一郎
新年明けましておめでとうございます。昨年5月に理事長になりましたが、7か月が経過いたしました。本年も引き続き宜しくお願いいたします。

昨年は、消費税増税や為替等の影響で、年後半より久しぶりの木材業界にとりましては、追い風の年となりました。日田木協の組合運営状況も、組合員皆様のご支援と職員の協力のおかげで順調に推移いたしております。このまま3月決算を迎えたいのですが、いつまで継続するかわかりません。このような時こそ次の手を考えたいと思います。

折角の機会ですので、日田木協の現状につきましてご報告させていただきます。まず、恵良土場につきましては、当初は今年度末には埋め立てを完了することを目指しておりましたが、国土交通省と協議の上、経費面や土質面で来年度工事の方が組合にとり有利になるとの判断で、埋め立てを1年伸ばし来年度末完了を目標といたしました。並行して金融機関等に跡地利用のご提案の依頼をいたしております。組合員の皆さまからのご提案もお待ち致しておりますので宜しくお願いいたします。

次に、日田杉の館活用に関しましては、まずこれまでの経緯や現状把握に始まり、いくつかのシュミレーションにおける経費面と収益面につきまして試算させていただきましました。並行して組合員皆様のご意見もアンケートの形でいただき、貴重な御意見

たいと考えております。

製品の共販につきましては、旺盛な需要に助けられ順調に推移しておりますが、現状は受注に対し仕入が追いつかない状態で、得意先にご迷惑をおかけしている現状でございます。組合員皆様の出荷のご協力をお願いいたします。また、組合の乾燥加工施設につきまして組合員の皆様にアンケート報告をいただきました。前号の木協通信で報告させていただきました通りの内容を担当委員会、役員会に報告させていただきました。来年度事業として実施するか協議いたしております。これにつきましては、行政のご協力もいただかねばなりませんので早期の判断をいたしたいと思います。

原木市場につきましては、秋以降の相場に助けられ収支の改善がみられております。現在のような原木事情でありますので、リスクを恐れず1本でも多く出材し、組合員工場のお役に立てればと役職員一丸となつて集荷に努めております。また、将来の安定した原木確保のため森林経営計画等の申請業務を日田木協でできないか検討中でございます。幸い、県職OBに参事就任いただきましたので、新たな組合事業として山林をお持ちの組合員の皆様にお役に立てればと思っております。

また、資材販売につきましては、各組合員工場の皆様の稼働状況に比例し順調に推移しておりますが、新たな商材の発掘に努力しているところでございます。金融事業につきましても各金融機関の皆様のご協力を得ながら、少しでも有利な事業になればと心がけております。

これから新年度に向けて上記のような課題をひとつずつ解決しながら新たな課題を見つけていきたいと思ひます。組合員の皆様のご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



ありがとうございます。設立当時いただいた補助金の問題や、現状の銘木の価値等の調査を踏まえて、今年度末には一定の方向性を出し

★製品販売会議

12月6日、組合員12名、県職員2名、木協職員3名、合計17名で製品販売会議を行いました。今回、県職員、井上氏に講話をお願いしました。



◎木材市況の現状について

大分県庁農林水産部林産振興室木材振興

流通対策班 主任 井上八州人
県産材流通販売担当

今、原木価格が高騰しています。この背景には、昨年末からのアベノミクスによる円安環境下で、輸入製材品価格の先高見込み、そして現実に高騰と、この一年を通して国産材の割安感が強く、手当が活発な状況であったことが要因として大きいと考えられます。ここに木材ポイントや消費税増税前の駆け込みなどの影響が加わり、木造住宅の需要が高まったことで、国産製材品、特にKD材などほどの製材所も多量の受注残を抱えていることと思ひます。

この需要増に対し、原木の出材は例年並み、若干多めで推移しているというのが現状です。結果として、需給のギャップが大きくなり、原木価格が急激に上昇しているということです。11月のスギ全体の原木平均単価を見ますと、6年前の水準に達しておりますが、さらに上昇する見込みです。特にスギでは柱取り、ヒノキでは土台取りの丸太については、入札が殺到して平均価格より遙かに高い価格で取引されているようです。

一方で、製材品価格の取引価格は値上がりが遅れました。原木価格の上昇ペースが急すぎたこともあり、製材工場は経営的に非常に苦しい状態を強いられいていると思ひられます。11月頃になって、ようやく製品市場での落札が高値となり、12月あたりより一息付けるといふ製材工場も多いのではないのでしょうか。今、製材品は不足感が高まり先高感があるために、各製材所には見込みも含めた発注FAXが大量に出ていると思ひます。それに追われて丸太の買付に走っ

ても足りない、購入費も嵩むといった大変な日々を、製材工場の社長さんは送っておられることでしょうが、豊作貧乏とならないよう経営に気をつけて乗り切っていただきたいと願っております。

行政の立場からこの状況を見ると、二点ほど危惧されることがあります。一つは国産材の製材品が原木不足を理由に欠品を起こしていることです。輸入材を扱っている商社では、待ちに待った欠品とばかりに、輸入製材品の発注を増やしていると聞いています。特に、消費税の駆け込みなどで工期がより厳しい、プレカット業者などは製材品の集荷に必死です。年間の受注棟数が100を超えるような大きな工務店・ビルダーなどでは、国産材に仕様変更した分をすぐに戻すということはなかなかできないようですが、全国的に、変えられる物件から輸入製材品を用いて工期に間に合わせるという動きが活発化しています。

二点目は、製材品の価格が及ぼす需用者への影響です。原木価格に続き製材品価格もようやく上がりはじまりましたが、上がりすぎて 高騰していた）輸入製材品との価格差が無くなり、この勢いでは超えてしまいかねない状況です。円安環境下にもかかわらず、その価格を超えてしまえば、市況は自ずと国産材離れに傾くと思います。ましてや、国産材は欠品中であり、外材への切替えの大義名分を与えてしまっている状況にあるように、製材品流通に関わる方々と話をする中で感じています。

そうなると、今の状況がそう長くは保たないと思います。あくまでも製材品が輸入製材品と競合している以上、輸入製材品価格を上限として逆算する形で原木価格が形成されなければ、原木を仕入れて製材品を生産する製材工場は事業として成り立ちません。原木を理由として価格が上がった以上、原木を理由に価格は下がります。ここ近年の傾向として、春需秋需という二つの山を持っていた住宅需要は春が消え、秋に一極集中しています。これは住宅に対する助成制度などが多く、その切り替えが4月となるために、様子見の分も含めて4月前後に住宅着工が落ち込むといった要因が考えられます。ここで確実に製材品需要は落ち込むと思われます。



但し、製材工場は原木、流通業者は製材品の在庫が空です。4月の前後一ヶ月あたりが在庫確保の調整局面となると思われますが、この時に現状の加熱相場では、在庫を抱え込もうとする人はいないでしょう。おそらく輸入製材品価格を見ながらの調整になると思います。特に、プレカット工場に聞くと確実に見込まれる物件は来年の2月までとのことです。逆算すると、KD用の丸太がどうしても必要となるのは年内一杯、グリーン材用の丸太も1月一杯ではないかと思っています。それもメインとなる直材以外は前兆のように価格が下がると予測しています。個人的意見になりますが）遅くとも2月下旬には原木価格が例年並みの価格帯に向けて、急降下する可能性があると思います。

住宅需要については、前回の消費増税時には2割減という大幅な下落があったところですが、今回拡充された住宅ローン減税やすまい給付金など、むしろ増税後の方が住宅購入に有利なのではないかと言われるほど、手厚い影響緩和策が出されています。このため、住宅着工戸数は多少落ち込むかもしれませんが、木造住宅戸数はそれほど落ちないと言う意見を多く耳にしています。例年ゴールデンウィークに展示場などでの年の消費者心理がわかってくるのですが、恐らくは昨年同様の、80万戸後半くらいは見込めるのかもしれない。

重要なのは、住宅需要が今年と同じように秋に出てきた場合、今経験している混乱が再度生じる可能性があることです。と言うのも、円安環境下は変わらず、原木価格が春に落ち着くと製材品価格も輸入製材品と同等以下に戻り、国産材は需要の中心に位置すると思います。そこで今年より量が減るとはいえ、秋にまとまった注文が出てきてまた原木不足、製材品不足と騒いでは、国産材自体の信用に関わることでないでしょうか。ここは山から川下まで、木材に関わる業界が一体となって情報を共有し、早めの対策を講じる必要があると思います。原木市場が役割として担うべきかもしれませんが、素材業者の数、トラックの数、限りのあるものばかりですので、素材生産をいかに需要期にフル生産していただけるか、業界を挙げて調整するべき課題であると思っています。

当然、素材生産も製材所も流通もそれぞれに経営判断があり、その総体が日田という一大産地を構成しているということは間違いないです。しかし、これだけの産地であるからこそ、国産材という大括りの需要自体に対する影響力は大きく、その分責任があると思います。是非、翌年は意地でも混乱を回避していただき、日田という産地を全国に誇っていただきたいと期待しています。

☆前津江、五馬山調査

12月14日（土）木協役員及び職員で、前津江、五馬山の管理状況及び生育状況の調査を行いました。前津江山は、台風災害によ

り3分の2が再造林され7年が経過しております。標高が高い為育ちはあまり良くありませんが、年毎に大きくなっています。五馬山は、樹齢60年で見事な山になっており、最終の仕上げ間伐を来年度行う予定です。ここは、県道から山へ入る入口が狭く、大型トラックが通れない状況にあります。この為、末野 むいの（集落の近くから、来年度日田郡森林組合が主体となり、延長一六〇〇メートルの高規格作業道を開設する計画です。これが完成すれば木協の山まで通れますので、これを使って出材する計画です。

左記 前津江山



左記 五馬山



☆第91回木協ゴルフ会

平成25年12月1日第91回木協ゴルフ会が天瀬カントリークラブにて行われました。今回は、来賓12名、木協組合員及び職員7名の計19名で行いました。

優勝 山ア運送 田辺 奏様
準優勝 九州日野自動車 丹下邦亮様

